

## 2012年11月9日 記者会見 質疑応答（東京）

発表内容：2013年3月期 中間決算について

日 時：2012年11月9日（金） 15時30分～16時12分

場 所：日本銀行 金融記者クラブ（東京）

発表者：代表執行役社長 檜垣誠司、代表執行役副社長 東和浩、執行役 野村眞

### 【質疑応答】

- Q. 公的資金の返済について、預金保険法に基づいて注入された優先株式4500億円の返済を5年程度で行うと2年前に公表しているが、剰余金が順調に積み上がっていることをふまえて、前倒しで返済することも考えているのか。
- A. これまでもお話している通り、可能な限り、早期に返済したいという考えに変わりはありません。しかしながら、返済にあたっては、健全性の維持と返済とのバランスを慎重に検討していく必要があると考えており、今後の自己資本規制強化等の動向を見極めつつ、柔軟かつ機動的に検討していきたいと考えています。りそな資本再構築プランの発表時と比べても剰余金は順調に積み上がっており、今後についても健全化計画でお示した通り、安定した収益の確保により、着実に剰余金を積み上げていきたいと考えています。
- Q. 貸出のボリュームは増えたものの利鞘が低下して国内預貸金利益は減少している。これについての対策はあるのか。
- A. 貸出金については、コアとなるお客さまの数を増やしていくことと同時に、与信費用を適切にコントロールしていくことが重要だと考えています。利鞘については、過当競争により、国内全体で縮小していますが、我々は従来の設備資金や運転資金への対応に加えて、例えば資産承継ニーズに信託機能等でお応えし、お客さまにオーダーメイド型の融資やソリューションを提案していきたいと考えています。このように他行と競合しないサービスを提供していくことで金利競争に打ち勝ちたいと考えています。
- Q. 景気後退局面という見方もあるが、下期をどのように見通しているか。
- A. ダウンサイドリスクをどう考えるかという点では、今後の市場の不確実性を踏まえ、債券等の市場部門の収益や与信費用については、保守的な見通しとしています。
- Q. 細谷会長が不在になった影響をどのように考えているか。
- A. 細谷会長は徐々に一線から身を引くなど、着実に世代交代を進めていました。また、当グループは「りそなサクセッションプラン」というシステムを通じ、役員の選抜やステージごとの教育を行っています。5年前の社長就任時の会見で私はサッカー型のグループ経営をすると申し上げましたが、その趣旨に沿って役員たちに様々なポストを経験させ、彼らの質を高めてきました。現経営陣はリーマンショックも乗り越えてきたメンバーです。細谷会長が他界されたことは相当な打撃ですが、我々経営陣は、それを乗り越えていくだけの実力を備えていると思います。
- Q. 日銀が「貸出支援基金」創設を決めたが、これは貸出増加の追い風になると思うか。
- A. まだ詳細が決まっていますが必要な施策だと考えています。日本の社会やお取引先の支援に積極的に取り組んでいきたいと考えています。また、活用することで追い風にしなければいけないと考えています。

**Q. シャープに対する追加支援について考え方を聞かせて欲しい。**

**A. 個別企業の事象についてのお答えは、控えさせていただきます。**

あくまで、一般論として申し上げますと、日本にとって大切な企業であり、ご相談があれば応分の支援を検討させていただきたいと思っています。一方で、日本企業が世界的な競争に負けているという事実にも銀行としても向き合っていく必要があると思っています。グループとして積極的に社会に貢献し、地域やお客様の役に立つということをスローガンとして掲げており、当社としてできることは、全力で行っていきたいと考えています。

**Q. 下期の貸出金の増加額の計画を教えてください。**

**A. 貸出金については銀行合算ベースで9月末残高が約26兆円となっていますが、3月末の残高は26兆3000億円程度を計画しています。内訳は、住宅ローンで約2000億円、中小企業貸出で1000億円程度の増加を計画しています。**

**Q. 利鞘の反転、資金利益の反転はいつ頃になると見込んでいるか。**

**A. 下期も利鞘縮小を見込んでおり、暫くは継続すると考えております。資金利益はベンチマークのひとつではありますが、お客様の課題を解決するお手伝いをする中で、グループの持つあらゆるソリューションを提供し、商品・サービス、機能をご利用いただくことで、お客様一人当たりの収益を向上させていきたいと考えています。**

以 上